

令和元年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立芙蓉中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、英語)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

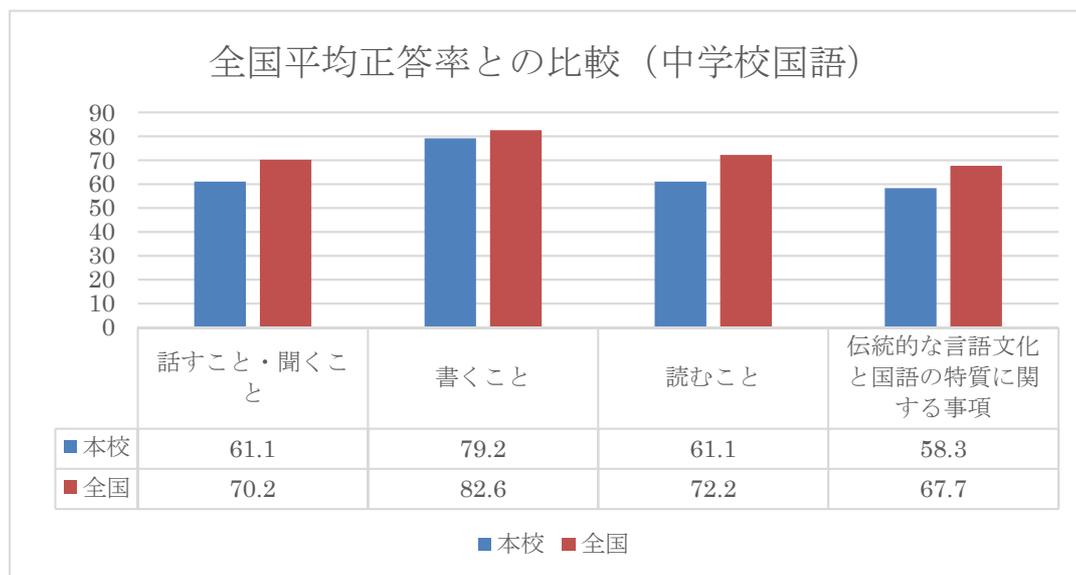
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果



4領域のうちすべてで全国平均正答率を下回った。分布の割合を見ると、下位にやや偏りがあり上位の生徒が少ない。無回答率は全国平均より低かった。

(2) 成果と課題

今回の調査で、特に「読むこと」に課題が見られた。また、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」にも課題がある。このことは、国語科の単元作りの中に、「読むこと」「話すこと・聞くこと」を1年間の見通しをもって取り入れていく必要がある。国語科の授業では、全ての単元で語句語彙を辞書で確かめ、適切な言葉で表現する場をもうけている。このことは、「書くこと」の基盤作りになったと考えられる。1年間を見通して、身に付けるべき力を3つの内容領域と関連付けながら単元の学習を創り上げる必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

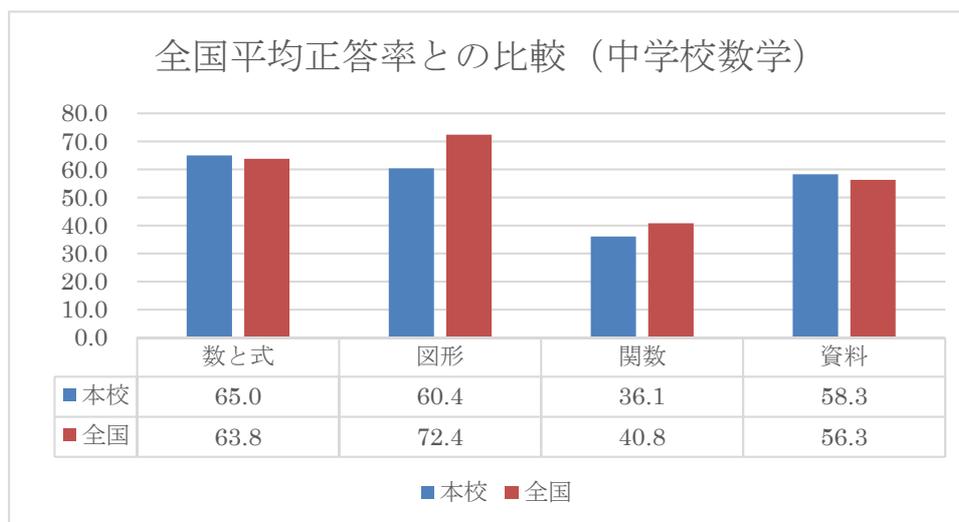
- 言葉の意味や用法に注意して、語句語彙を文中で正しく使う指導を工夫します。
- 目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く指導をします。
- 考えを出す方法や話し合い方を知り、目的に応じた話し合い方を身に付ける場を設定します。
- 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む指導を工夫します。

【ご家庭では】

- 国語科の学習では一年を通して、四字熟語や新しい表現・語句語彙を確かめるために辞書を使って学習しています。ご家庭でも、辞書を引くようお声かけをお願いします。
- ご家庭では、お子様が国語科で身に付けた力を応用できる場として、共感したり、根拠を尋ねたりして、お互いの考えを交流しましょう。
- 読書のジャンルを広げてあげましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…様々な分野の本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

2 数学

(1) 結果



「数と式」「資料の活用」では全国平均を 2 ポイント程度上回っているが、「図形」の領域で全国平均と比較して大きく下回っている。問題形式においては、記述式の問題での正答率が全国平均を下回っており、無回答率も全国平均に比べて若干高い傾向が見られた。

県平均との比較においては、教科全体の平均正答率は同等であり、評価観点別、問題形式のどちらも、県平均と同じ傾向であった。

(2) 成果と課題

「かんたんな場合において確率を求めること」「表から最頻値を求めること」「与えられた説明を読み取り、式を変形すること」について、よく理解できている。

逆に「反比例の表から式で表すこと」「三角形の合同条件」「資料にふさわしい代表値を示し、説明すること」に課題が見られた。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

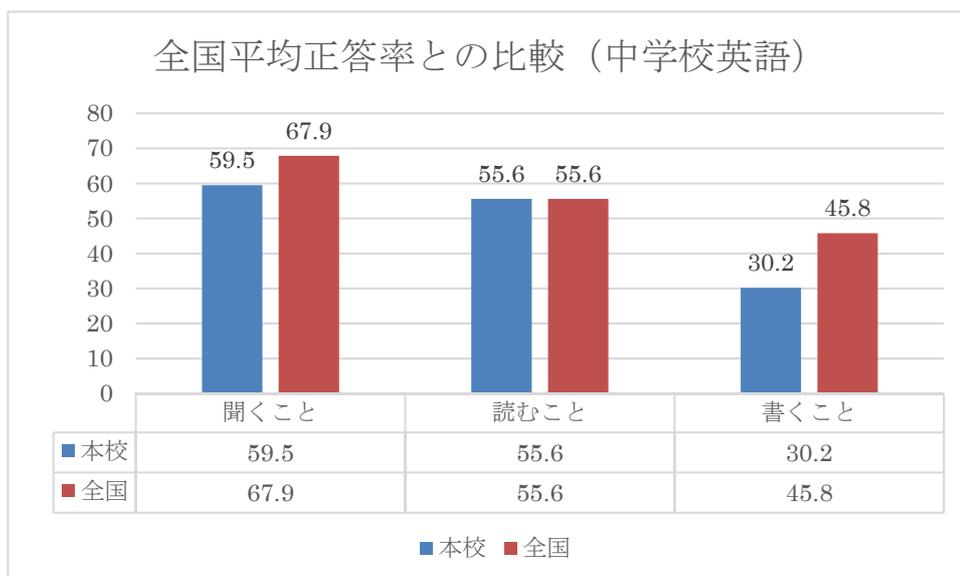
- 知識の習得の場面では、基礎・基本の定着のための練習と確認テストを常時行います。また、活用の場面では、思考力を要するような課題を意図的に設定し、グループ活動や全体での発表などを通して、表現する力も併せて身に付けさせられるよう取り組みます。
- 各単元の導入において、単元全体の見通しをもてるような課題設定を行います。
- 授業ごとにワーク見開き 1 ページを宿題にしています。その際、ただ量をこなすのではなく、何が出来ていないのか、今必要な学習は何かを常に意識させます。

【ご家庭では】

- 毎時間課題を出します。また、授業等で分からなかったところは復習するように話をしています。家庭学習の定着への協力をよろしくお願いいたします。じっくり考える過程を大切にしよう励ましてください。
- 小テストや単元末テスト、実力テスト、学期末テストなど様々なテストを実施しています。基礎・基本の定着度をみるもの、活用力をみるものなど、目的に応じて様々です。ご家庭でも、授業の内容やテストでの得点状況などたずねてみてください。

3 英語

(1) 結果



「聞くこと」・「書くこと」の2つの領域で全国平均を下回っている。また、「聞くこと」の対全国比に比べ「書くこと」の対全国比がより低い割合になっている。

(2) 成果と課題

話されたり書かれたりしているまとまりのある文章の内容そのものを理解することはおおむねできている。しかし、その内容から目的・場面・状況に応じて要点や概要を捉えることに課題がある。また、与えられたテーマに基づく自分の意見を英作文にする問題は最も正答率が低かった。

今年度より導入された「話すこと」を試す問題は正答率が全国比 30.8%（参考値）と低く、本校生徒においては、対話を理解しながら、適切な表現を用いる力の弱さが明らかになった。また、自分で英文を組み立てて表現する力は全国平均を上回った。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- まとまりのある文章を読んで、大切な部分を読み取る指導を充実させます。
- 新出した文法や内容について、確実に身につけさせ、活用する指導を充実させます。
- 自分の考えや気持ちを整理し、まとまりのある文章を書く指導を充実させます。
- 生徒が関心のある事柄について積極的に取り組むようなトピックや題材を設定する工夫をします。
- 言語定着のため、互いの考えや思いを伝え合う活動を充実させます。

【ご家庭では】

英語の学習では新しい表現を学ぶことだけでなく、その国の文化や習慣など、学ぶことがたくさんあります。ご家庭では学んだ事はどんなことなのか、それに対してどう感じたのかなど話をしていただくようお願いします。また、学習したことを自分のこととして表現できるかどうかなど声かけをしてコミュニケーションを図ってください。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	91.7	82.3
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	41.7	33.6
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	83.3	57.0
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしますか	25.0	46.1
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	33.3	22.5
学校の規則を守っていますか。	75.0	66.8
人が困っているときは、進んで助けていますか。	41.7	34.6
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	91.7	78.3

朝食・起床・就寝については全国平均を上回り、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムも概ねできている。実際に本校の9年生の遅刻は見られない。これは家庭の協力なしにはできないことであり、保護者の皆様に感謝します。家庭での会話の時間がもっと増えればなお良いです。

挑戦心や規範意識についても肯定的な回答をした本校の生徒は全国平均よりも良好な結果でした。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	8.3	14.9
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。 「2時間以上」	0.0	4.8
「1時間以上、2時間より少ない」	8.3	25.6
「30分以上、1時間より少ない」	41.7	37.3
「10分以上、30分より少ない」	25.0	17.2
「10分より少ない」	25.0	8.4
「全くしない」	0.0	4.4

家庭学習については自分で計画を立てて取り組むことができていない。家庭学習の時間も全国平均よりかなり少ない状況である。まだ1時間未満の生徒がほとんどで宿題のみで終わっている状況が見られる。家庭学習の進め方や Fuyo 夢プロジェクト週間を活用して家庭学習の意味を生徒に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきたい。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎朝15分間（8：15～8：30）、基礎学力の定着を目指し、「各教科のドリル」を行っています。また、家庭学習が定着するように毎日自主学習ノート（自学）を1ページ以上行うように指導しています。
- 放課後学習会を利用し、苦手教科の克服や卒業後の進路への意識づけ等学習への課題意識を持たせるようにしています。

【ご家庭では】

- お子さんと学校での出来事や将来について話す時間を増やして下さい。
- ゲーム、テレビ、パソコンやインターネットなどの使い方について約束事を決めるなど、学習に集中できる環境を整えて下さい。
- 「芙蓉校9年間の家庭学習のすすめ」や「家庭学習の進め方」をご覧になり、学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、自分で計画的に学習できるように励ましてください。